vinetur

アルゼンチンのワイン規制当局、ワインとブドウ果汁の検査法51種類をまとめた指針を採択

アルゼンチンの287ページの指針が検査管理を国際基準に整合させ、検査や輸出認証に向けた共通基準をワイナリーと検査機関に提供

2026年11月9日（月）



アルゼンチン国立ブドウ栽培・ワイン醸造研究所（INV）は11月5日、ワインとブドウ果汁の分析に用いる検査法を標準化する新たな公式指針を公表した。国内のワイン産業全体で規制上の検査に一貫性をもたらすことを目的としている。

同機関は決議RESOL-2026-8-APN-INV#MECにより、この文書を承認した。指針には、ワイン部門の製品に対する公式監督のための検査機関向け技術手法51種類が、1つの資料にまとめられている。INVによると、全287ページで、ワインと果汁の検査に携わる検査機関が使用する手順の統一を目的に

作成された。

同研究所は、今回の改訂は国内外の市場の要請に応えるものだと説明した。国際的な基準と互換性のある分析手順を整備することで、アルゼンチンワインの品質を支え、輸出先の国が定める要件への適合を確認しやすくなるとしている。

新たな指針は、アルゼンチンのワイン産業に合わせて調整した検証済みの物理化学的手法をまとめ、統一的な手順の枠組みを定めている。INVによると、国際ブドウ・ワイン機構（OIV）の基準と、同機関が独自に開発した手法を基礎としている。

文書は、日常的な分析検査から、各輸出市場の仕様を満たすために必要な手法までを網羅する。INVによると、これらの手法は製品の安全性、適合性、品質を支えるとともに、リスク基準に基づく公式監督体制を強化することを目的としている。

ワイナリー、瓶詰め業者、検査機関にとって、手法の標準化は、規制当局がどの分析法の使用を求めているかをめぐる不確実性の低減につながる可能性がある。また、公式検査を輸出要件に沿わせる助けにもなり得る。国際的に認められた検査手順を求める市場にワインや果汁を出荷する生産者にとって、実務上重要な点だ。

この措置は、アルゼンチンの主要な酒類産業の一つが、法令順守、品質、製品の完全性をどのように証明するかに影響するため、飲料業界全体にとっても重要だ。検査の枠組みを明確化し統一することで、ワイン関連企業や検査機関が規制審査をより効率的に進めやすくなる可能性がある。とりわけ、海外市場の技術基準を製品が満たしていることを示す必要がある場合に有用となる。

INVは今回の変更について、手法を最新の状態に保ち、技術革新を取り入れ、検査手続きを改善するための取り組みの一環だと説明した。同機関は、最新かつ効率的な検査体制を維持するには、分析手法を継続的に更新することが重要だとしている。

同研究所はまた、この指針が公式検査の透明性を高め、現行規制の順守を支えると述べた。同機関の見解では、国内の検査を国際的に認められた外部基準により近づけることで、アルゼンチンワインの国際的な評価向上にも寄与し得る。

アルゼンチンは世界有数のワイン生産国であり、規制の一貫性は貿易上の市場アクセスと密接に関わる。日常的な検査法と市場ごとに必要な手法を1つの公式指針にまとめることで、INVは国内の監督と輸出向けの適合確認の双方に関わる検査・認証業務について、検査機関と生産者に共通の技術基準を提供しようとしている。

技術文書の全文はINVのウェブサイトで公開されている。